



居住空間の湿気やホコリに気をつけましょう。

調査から分かったこと アレルギー性疾患の有病率が増加

ヘルスケアのポイント 仮設住宅では室内の空気に注意しよう

東日本大震災の被災地域で実施した子どもの調査では、アレルギー性疾患の有病率増加が指摘されています。さらに、男児では被災体験とアトピー性皮膚炎の間に、女児では被災体験と喘息の間に関連のあることが認められました。仮設住宅の設計や入居の際には、室内の「湿気」や「結露」の発生を抑える工夫をしましょう。布団を干す、室内の換気や清掃を頻繁に行う、湿気を出すものを室内に置かない、といった対策も有効です。

保育所調査

計 **3,495** 園

計 **122,751** 名

平成16年生／53,747名

平成18年生／69,004名

上記を対象に調査

アレルギー疾患の有無(概要)

〈アトピー性皮膚炎〉-----

被災経験なし **3.4%** ※

被災経験あり **4.8%** ◀ **1.4%増加**

〈喘息〉-----

被災経験なし **3.3%** ※

被災経験あり **6.3%** ◀ **3%増加**

※統計学的に有意な差

仮設住宅では、天井や布団裏にカビが発生!



住宅室内でのカビ・ダニ予防ポイント 特「寝室」に注意!

① 室内の湿気・結露の発生をおさえる

- 屋外・屋内での布団干し
- 湿気を出すものを置かない
- 室内の換気

② 清掃を頻繁にする

- 週に1回以上 室内に掃除機をかける
- 掃除機をかける前に 床を水拭きする

③ 寝室・寝具での対策

- 週に1回以上、寝具のものに 直接掃除機をかける
- ぬいぐるみ、クッション等 はなるべく置かない
- カーペットを使用せずフローリングにする



掃除は「窓を開けて換気」し「マスクやタオルで口を覆い」ながら行いましょう。

※ 出典

・厚生労働科学研究「気管支喘息に対する喘息死の予防や自己管理手法の普及に関する研究」国立病院機構東京病院 大田健・国立病院機構埼玉病院 鈴木澤尚史
 ・「東日本大震災にみる災害時居住環境を汚染する真菌のアレルギーリスク評価 及び予防衛生管理に関する研究」国立医薬品食品衛生研究所 渡辺麻衣子